



いきいきファーマーだより 第80号

平成27年10月15日 益田市農業担い手支援センター発行

益田市ホームページアドレス

<http://www.city.masuda.lg.jp/>

目次

- 1. 行事スケジュール
- 2. お役立ちなんでも情報
- 3. お知らせ
- 4. 紹介コーナー
- ◇◇雑談コラム◇◇

1. 行事スケジュール

月日	イベント名	会場・時間
10月29日(木)	西部地区子牛共進会	場所：遠田町 時間：9:00～
11月10～11日	全国農業担い手 サミット in みやざき	場所：宮崎市民文化 ホール
11月27日(金)	あぐりトップセミナー	場所：益田合庁 時間：15:00～

2. お役立ちなんでも情報 ～各地イベント・情報提供～

あぐりトップセミナー～安全・安心な農産物生産手法研修会～を開催します！

今年度の「あぐりトップセミナー」は、安全・安心な農産物生産手法について、下記のとおり開催します。消費者から求められる食の安全を確保するための効果的な一手法として、農業生産工程管理という手法がありますが、この手法の実践は、安全・安心な農産物の生産にとどまらず、環境安全、労働安全の確保、品質の向上、農業経営改善や効率化、競争力の強化などが期待されています。

ご自身の農場運営を見直す良い機会ですので、みなさま奮ってご参加ください。

開催日時：平成27年11月27日(金) 午後3時～午後5時30分

場 所：益田合同庁舎5階 大会議室

内 容：「持続的な農業経営、安全・安心な農産物の提供に向けた
農業生産工程管理導入のポイントについて(仮題)」

講師：安心農業株式会社 代表取締役 藤井 淳生 氏

稲SGS（籾米サイレージ）製造に係る現地視察の受け入れについて

昨年度より益田管内の畜産農家が中心となり、飼料用米の新たな利用方法である稲SGSの製造及び給与が実施されています。今後、さらに県内での普及定着を図り、畜産農家の地域内自給率向上及びコスト削減、耕種農家の飼料用米生産の拡大を図ることを目的として、現地視察の受け入れを実施します。

【視察受入日】 平成27年10月21日（水）～23日（金）

【場所】 鹿足郡津和野町河村504-1

「有限会社フロンティア日原（JAカントリー日原サブ施設） 機械庫」

【対象者】 県内農業者及び関係機関

【視察説明者】 西部農林振興センター益田事務所農業普及部職員

【申込み締め切り】 視察日の1週間前までに、代表者名、人数、視察希望日、連絡先等を下記までお知らせください。

※当日は荒天の場合以外は製造工程を見学することができます。

※できるかぎり、車を乗り合わせて、現地まで直接お越しください。

【問い合わせ・申し込み先】

西部農林振興センター益田事務所農業普及部

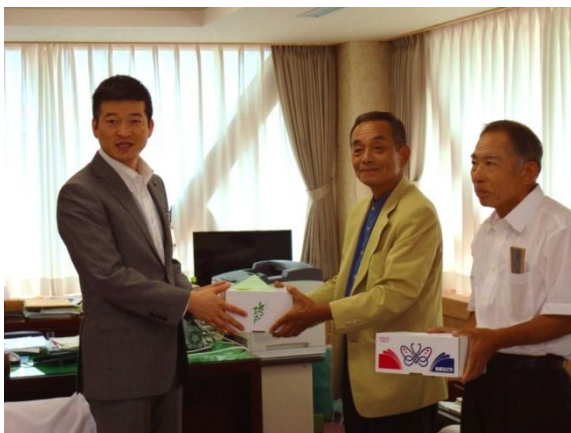
電話 0856-31-9615 担当：中村（渡部、領家）

FAX 0856-31-9608

益田市長にブドウが贈呈されました！

JAしまね西いわみぶどう部会は7月24日（金）、益田市役所を訪れ、山本浩章市長を表敬訪問し、出荷が始まったばかりの“シャインマスカット”と“ピオーネ”を贈呈しました。

岩崎部会長、竹内副部会長は、今年も良質なシャインマスカットが収穫できたことを山本市長に報告するとともに、市のPRに役立ててもらおうよう、お願いしました。早速試食した山本市長は、「実がしっかりしていて、甘みが口いっぱい広がりますね。」と絶賛されていました。



3. お知らせ

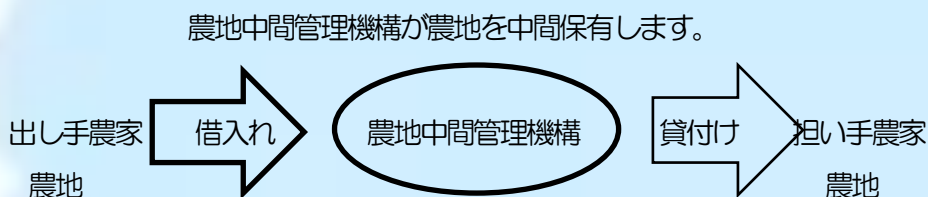
農地借受意向調査について

先般、実施しました農地借受意向調査につきまして、認定農業者の皆様のご協力をいただき有り難うございました。皆様の農地借受希望を取りまとめることができ、今後の農地の流動化に役立てていきたいと思っております。また、農地の貸出希望の方とのマッチングを行い、対象の方につきましては、個別にご相談をさせていただきたいと思っております。今後とも農地の借入のご希望等ありましたら、農業振興課へご連絡いただきますよう、よろしくお願いいたします。

公益財団法人「しまね農業振興公社」よりお知らせ

しまね農業振興公社は平成26年3月に「農地中間管理機構」として島根県より指定を受け、農地中間管理事業を行っています。また、その業務の一部を各市町村等に委託し、農地中間管理機構を中心として関係者の総力で農地の集積・耕作放棄地解消に取り組んでいます。

今回は農地中間管理事業のしくみについてお知らせします。この事業は農地の出し手(貸し付け希望)と受け手(借り受け希望)の間に立って、農地の賃貸等を行い農地の集団化、経営規模の拡大を進める事業です。



○農地の借入りに当たっての主な条件

- ①農業振興地域の区域内の農用地等であることが必要です。
- ②受け手が確保される見込みのある農用地等であることが必要です。

○主なメリットは次のものがあります。

- ①農地中間管理機構へ貸される方は、機構集積協力金の対象になります。(要件があります)
- ②農地中間管理機構へ貸される方は、特例付加年金等の受給対象となります。
- ③農地中間管理機構から借り受けされる方で、複数の貸付者がおられる場合、県公社が中間保有する事で、貸借に係る手続きの繁雑化が解消されます。

借り受けを希望される担い手の方は農地中間管理機構へ先ずは応募をお願いします。

お問い合わせ先

益田市役所農業振興課 農業担い手支援センター

☎(0856) 31-0312 Fax (0856) 24-0452

【農業担い手支援センター】

農地中間管理事業担当 田中一史 門永静波 藤井葉子

【(公)しまね農業振興公社】

農地集積推進員 伊藤 栄

3市町認定農業者連絡協議会合同視察研修会を開催しました！

8月21日に益田市西部開パイにおいて、益田市と鹿足郡（津和野町、吉賀町）の認定農業者が参集した合同視察研修会を開催しました。当日は、約20人の認定農業者が参集し、西部開パイの認定農業者3戸の各農場及び益田市堆肥センターを訪れ、それぞれの取り組みについての理解を深めました。また、研修後、参加者からは「大変参考となった。」、「続けて開催してほしい。」などの意見が聞かれ、研修会は盛会のうちに終了しました。来年度は、主催が交代し、鹿足郡で開催される予定です。



4. 紹介コーナー

いきいきファーマーズ ～新規就農者紹介～

名前：佐原宏臣	営農類型：水稻有機栽培
年齢：41才	住所及び営農場所：益田市美都町都茂 小田又（こだまた）集落
益田で農業を始めたきっかけは？	
<p>震災後、妻が農業をしようと考え、東京から移住を（半ば強引に！）決めました。水稻合鴨栽培の研修先に美都町の農事法人を選んだことがきっかけです。サラリーマン生活をやめ、ついてきた夫である私は仕事探し中に近所のおじいさんに（半ば強引に！）誘われ、農作業を教わることになりました。初めての日に突然農機具屋につれてかれ、私専用の草刈り機を買い与えられました。雨の日も雪の日も農業を教えてくださいました。耕作放棄地を借り受け、農道が悪ければ鋤を振って直し、圃場への道がなければ、山から木を切り出してワイヤーと丸太で道を作ることを教えてもらいました。ふたりで経営していく面積に広げつつある中、春の育苗を教わる前に入院されてしまいました。日赤病院に発芽した育苗箱を持って、ベッドの横でメモを取り、初めての田植えは師匠の親交のある近所の農業者さんたちが見守る中、何とか終わることが出ました。植えた田んぼを見に、病院からハイヤーを借りて、寝たままの状態で駆けつけてきていただきました。全ての田植えが終わってすぐに、85才で亡くなった師匠の農地を守る形で農業を続けることにしました。夫である私が経営を主に考え、妻が理想を追求する役割分担で2015年1月に夫婦で就農しました。</p>	

将来の夢は？

草と米、主に植物達と格闘する毎日ですが、経営の中に動物をもっと取り入れたいと考えています。ヤギを1年ほど飼っていたのですが、死なせてしまいました。もっと動植物のことを勉強して、動物とともに働き、生産し、暮らすような老後をめざしています。



冬に太った合鴨。妻がさばいて私は食べるのみ。

趣味は？

ヤギがいなくなって農業以外のスペースが自分の頭の中になくなってしまいました。

今後の意気込みを一言！

山間の地で、農業経営の最小単位を見つけたいと考えています。作物を適正な価格で販売し、山間地の小農業の有りようを見つけようと考えています。

◆写真◆



雪の残る小田又の圃場



田んぼを荒らす輩への師匠の視線は厳しい。いくら小さくても…。美味しくいただく。



自家製肥料。冬仕事。



ヤギは草刈り、僕は畦塗り。春の準備。



師匠の見守る中、堆肥を散布。

師匠の田んぼで作った米が一等賞でした！

山陰中央新報

吉賀、津和野両町、益田市内、たいと、吉賀町内に「ターン」で栽培したコメの食味を競うて稲作に励む3家族でくる美「旨い米選手権」が15日、吉賀 行委員会が開き、5回目、コメ町柿木柿木の町ふれあい会館 は2014年が対象で、「旨」であった。有機農法などに取り、米の部」に9人計8品種、「玄」元のコメに白目を付けてもらいた。地元の人たちが次々に食べ

組む稲作農家が持ち寄った自慢 米の部」に9人計4品種がエソのご飯を、参加者30人が試食し、 トリーした。 会場には炊飯器や土鍋、圧力コメの品質の高さを体感した。 会場には炊飯器や土鍋、圧力生産者が交流の輪を広げ、地 釜で炊かれた飯が持ち込まれ

食べて味競う 旨い米選手権

吉賀 白米1、2位佐原さん(益)

エソりされた飯を試食する参加者

比べつや、香、ねほり、甘味のごしの5項目で評価、審査した。 投票の結果、白米の部は佐原宏臣さん(1) 益田市美都町都成川が「きめゆずめ」ことり新世紀」を出品し、1、2位を一家4人で「ターン」し、国の制度を活用して14年12月まで研修した佐原さんは「これからもコメの魂を追求したい」と話した。 その他の上位入賞者は次の皆さん。 白米の部 ③潮電太郎(吉賀町注連川) 玄米の部 ①土井義則(同)

◇◇雑談コラム◇◇

今年の9月は、ひと月前倒しかと思う早いほどの気温で、秋の果物も例年より早くから店頭に並んでいるようです。3年前までは9月になっても真夏日は当たり前前の年が続いていたのが、ここ2年は一転して涼しい9月になっています。一昔前にはなかった、この振れ幅に「いったい何なの？」と思う一方、少々の早晩あってもいいので、葡萄、メロン、柿などの益田産果物がこの先もずっと美味しく食べられますようにと祈る、食いしん坊の今日この頃です。(K.Y)。